

## 域内の回遊に着目した来訪者の観光行動分析—宮城県女川町を事例に—

東北工業大学	学生会員	○中林	果歩
東北工業大学	学生会員	高橋	祥智
東北工業大学	学生会員	堀籠	涼太
東北工業大学	正会員	泊	尚志
東北工業大学	正会員	菊池	輝
一般社団法人女川町観光協会	非会員	阿部	喜英
中央復建コンサルタンツ株式会社	正会員	末	祐介
中央復建コンサルタンツ株式会社	正会員	西村	洋紀

## 1. はじめに

東日本大震災によって被害を被った地域の一つである宮城県女川町復興が進み、現在は女川町総合計画2019<sup>1)</sup>が策定中である。その中の観光分野において今後の具体的な政策の策定を行なっていくためには、基礎情報として現在女川に訪れている観光客の消費行動や意識などの情報及び認識の把握を行なうことが必要となる。

そこで本研究では観光客の消費行動や意識などの情報および認識などを「観光客の基礎情報」とし、街頭調査を実施することで観光振興を進めていくにあたり必要となる「観光客の基礎情報」の収集を行う。更にそれらのデータに加えて観光客の回遊行動のデータの収集も同時に実施し、「観光客の基礎情報」と組み合わせることで、街頭調査のみでは収集が不可能であるより詳細な観光客の意識に関する情報の入手が可能であると予想した。そのための基礎研究として、「観光客の基礎情報」と回遊行動を組み合わせる際に得ることが出来る情報の一例を検出することを目的とする。

## 2. 調査概要

女川町を訪れる「観光客の基礎情報」の把握を行うために、本稿では女川への訪問観光客を対象に調査票の配布による調査を実施した。調査方法は、A3版の調査票を街頭配布し、調査対象地域内での回収とした。調査票は2018年11月17日、18日の2日間に、「女川駅前にぎわい拠点」付近の駐車場4か所及び女川駅前の計5か所で配布した。調査項目は、回答者の属性や

来訪目的のほか、宿泊や消費等の観光行動に関する項目とした。調査を実施した2日間で483人に調査票を配布し、435人から回答を得た（回収率90.1%）。回答者の居住地は仙台市が最も多く90人（20.69%）、その他の市町村を合わせると宮城県内が310人（71.3%）であった。

また訪問観光客の回遊行動に関するデータは、「女川駅前にぎわい拠点」内を対象として行ったWi-Fiパケットセンサーを用いた調査方法を用いることによって収集する。これは、本来ならばデータ制約により困難であるWi-Fiのデータを用いた観光客の回遊行動のデータを簡易な方法で取得する調査方法である。

## 3. 調査成果、考察

本章では「観光客の基礎情報」とみなす項目において、それぞれの項目間の関係性について分析する。以下では、それぞれの項目間でクロス集計を行ったうえで各項目を比較し、その結果と考察を示す。

またそれらのデータと回遊行動のデータの組み合わせる項目についての検討を行なうため、検出された回答者の滞在場所及び滞在時間の検出を行なった。

## (1) 旅行者属性と日帰り・宿泊の差、居住地

はじめに、回答者の性別・年代・同行者の構成・日帰りか宿泊か・来町回数・居住地のクロス集計を行った。その結果、40代以上かつ家族連れで訪れている観光客が多く、また同様に日帰りで訪れている観光客が多く存在していることが発覚した。また、居住地と日

帰り・宿泊に目を向けると、宮城県内はもちろんだが、その他の都道府県からも日帰りで訪れている方が見受けられた。

居住地に関する結果の検出理由としては、今回の調査日が通常の土日であったことにより居住地が宮城県内かつ日帰りで来ている家族連れの観光客が圧倒的多数を占めていたと考察できる。

また訪問の際の交通手段と女川周辺の道路情報も考慮に入れることで、「日帰り」と回答した者は本当に日帰りで訪問することが可能であるのかを確認することが出来る。これにより、道路上での車中泊の可能性がある日帰りの観光客を想定することで、そういった観光客も気軽に宿泊施設を利用することが出来る環境の整理を目指すための政策の必要性の検討に繋げることが可能である。

これらのクロス集計の今後の課題として、より詳細な基礎情報の収集を行うために、比較項目に「来訪目的」と「来町回数」を追加することで同行者の構成ごとの来町目的や来町回数、居住地・日帰りまたは宿泊ごとの来町目的などの結果を記す必要がある。

#### (2) 同行者の構成毎の消費金額、購買行動

つぎに、同行者の構成と消費金額、さらに購買行動毎の消費金額において関係性を分析した。その結果同行者の構成に関わらず、体験及び観光・買い物・食事の購買行動において消費金額は 1000 円以上 3000 円以下の消費が最多であることが判明した。また上記 3 つの購買行動から 2 つずつ抽出してクロス集計を行ったところ、比較項目の消費金額は僅かながら正の比例関係を示していた。しかしながらこれは 3 つ全ての項目を用いた比較は行っていないうえ、片方の項目において消費金額の値が大きい回答者のもう一方の消費金額も同様に値が大きいと証明することは不可能であるため、断言は不可能である。

今後の課題としては女川町で販売している物品の詳細な値段の調査を行い、物品の販売数に関する調査も行う必要があると考えた。

#### (3) 「観光客の基礎情報」と回遊行動

最後に、アンケート調査により収集した「観光客の基礎情報」と Wi-Fi パケットセンサーを用いた調査によって収集した回遊行動のデータを組み合わせること

で、観光客の行動範囲及び滞在時間と満足度の相関関係を示した。

「女川駅前にぎわい拠点」内を便宜的に 7 つのエリアに分け、観光客が訪問したエリア数及び「女川駅前にぎわい拠点」の滞在時間と観光客の満足度を相関係数に示すことで、両者に相関関係があるかを分析した。その結果、今回用いたデータではエリア数及び滞在時間と観光客の満足度の間には相関関係は認められないことが示唆された。

#### 4. 結論

本稿では Wi-Fi パケットセンサーによる域内の回遊行動の調査と実態調査を組み合わせることにより、「観光客の基礎情報」を実態調査によるデータのみを用いて分析した場合よりも詳細なデータの取得が可能であると考察し、宮城県女川町におけるデータを用いて分析を行なった。その結果、女川町においては両者の間に相関関係は認められないことが示唆された。

しかしながら一方で、今回用いた「観光客の基礎情報」と回遊行動のデータを用いた手法は「観光客の移動情報と意識の分析」の分析に用いることが可能であると見なす事が出来る。

#### 参考文献

- 1) 女川町公式ホームページ,  
[http://www.town.onagawa.miyagi.jp/pabcome/pabcome\\_onagawa2019.html](http://www.town.onagawa.miyagi.jp/pabcome/pabcome_onagawa2019.html)